

※出品段級位 (漢字半紙部 新級～正師範)

※弘前の部分には支部名を書く

躬之弁
虞而已

弘前

段級

對馬聖峯



使用筆(花林)・使用紙(無野半紙・桐)・使用墨(黒耀)



原帖



〔躬〕之奕虞而巳
 (仲)躬の奕(葉に軼ぎ) : (美を上)虞に(播く)のみならんや。

〔巳〕 〔而〕 〔虞〕 〔奕〕 〔之〕 〔躬〕

偏の上部は横の間隔を等しく、短い左はらいは細くならないよう筆圧をかける。旁は上下に余白を残し、横画を細く、縦画を太くする。

全体に横広にまとめる。2画目の入筆はしっかりと当てて、右上へはらう。折れの部分では方向に注意し強く当たる。最終画は三折法で。

上部は幅を狭く、縦の間隔を等しく。井の横画は長く、始筆はしっかりと当たり細めに、終筆は太めに。

横画はほぼ平行に同間隔で、左はらいは位置に留意して短く。下部のハで位置・方向に留意して安定させる。

全体に横広にまとめる。2つの横画はほぼ平行にし、間を広くあげる。而は画の方向・間隔に注意し、右側の縦画を太くしっかりと。

上部小さく引きしめ、左側は反り気味に張って、折れの部分は一度筆を止めてから横画へ。横の部分は除々に太く長く。

※出品段級位 (漢字半紙部 新級～正師範)

※弘前の部分には支部名を書く

弘前
段級
對馬
聖峰

不知其
心飄



使用筆(花林)・使用紙(無野半紙・桐)・使用墨(黒耀)



原帖



〔不知其所飄々〕其の止まる所を知らざるが(如く)、飄々(平として)

〔不〕 〔知〕 〔其〕 〔所〕 〔止〕 〔飄〕 〔々〕

1画目は筆圧を変化させ筆の弾力を生かしてしなやかに。
2画目は呼吸の長い運筆で、終筆は軽く止める。最終画は重くして安定させる。

偏は太めに右上がり強くし、転折部分でしっかりと方向を変える。口は下側に置き、上部に広い余白を。

筆脈をしっかりとつけて動きをスムーズに。左の縦画を太く、右側を細く。下部の横画は左に思い切つて長く出す。

上部の横画は位置に気を配り、始筆・終筆をしっかりとおさえる。下部は余白のとり方に留意し、動きをよく見て。

この字は小さく引きしめて。入筆から反つて折れ部分はしっかりと当てる。最後の点はじっくり筆圧をかけて。

偏と旁が上下にずれる形になる。偏は短い線や細い箇所も軽く書かないように。風の2画目は長くのびやかに。

位置に留意し、上の字の風の下あたりに、軽快に。

※出品段級位 (漢字半紙部 新級～正師範)

◎19頁に部分解説があります。

楷・行・草の三体字典からとっています。

弘前	恩	恩	恩
段級	温	温	温
津島	穩	穩	穩
春汀	下	下	下
	化	化	化
	火	火	火
	加	加	加

※弘前の部分には支部名を書く

使用筆(天開)・使用紙(中字用半紙)・使用墨(書芸真竹(固型))

※出品段級位 (調和体部 新級～正師範)

◎19頁に部分解説があります。

この度は誠にありがとうございます。

お祝いの喜びの気持ちを込めて

胡蝶蘭をお送りします。また今後

益々のご活躍をお祈りいたします。

弘前 段級 佐々木 彩苑



使用筆(からまつ)・使用紙(調和体用紙)・使用墨(書芸真竹(固型))

読み—この度は誠にありがとうございます。お祝いの喜びの気持ちを込めて

胡蝶蘭をお送りします。今後 益々のご活躍をお祈りいたします。

◎印墨つき

※弘前の部分には支部名を書く

漢字条幅漢詩課題

漢字条幅部
※出品段級位(新級〜正師範)

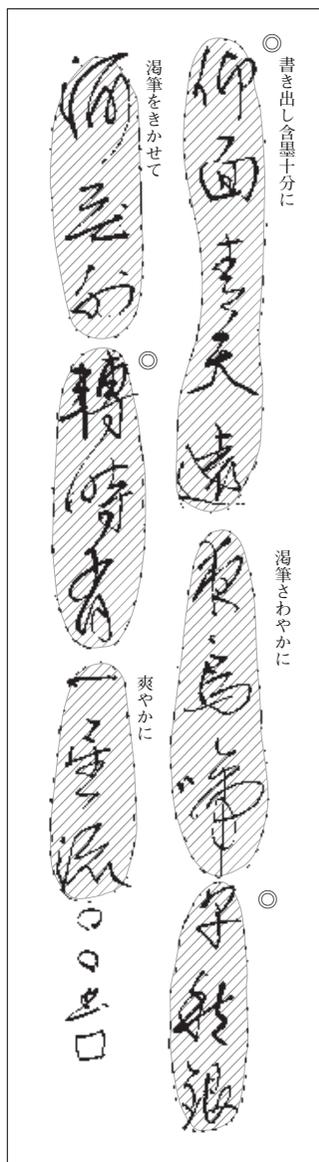
どんな芸術にも空間に対する感覚は大切な要素です。とりわけ白と黒のみで表現する書にとつて、白すなわち空間の大切さは、今までの解説でも多く述べられています。書の場合、それは文字造形における白であつたりしますが、要するに空間に対する感性が大切な要素でしょう。空間と線質と造形の組み合わせが、見るものにとつて様々な感じを与え、作品の多様さを見せてくれます。

しかし、理屈で分かつていても、どう表現するかは大変難しいことです。結局良い書を見て鑑賞することです。また、空間に対する感覚は、絵画や彫刻等も参考になる点があります。芸術は通じるものがあるからです。書を見るのは勿論、

いろいろな芸術に触れる機会を多くするのも、目を高める良い方法だと思います。

『作品には行の流れが重要な役割を果たすものですが、端的には筆脈が通じているか否かであります。具体的には連綿の形でしょうが、これは文字の組み合わせで難しいこともあり、文字の近接ないし、大小の組み合わせで、文字群を考える等、工夫してみてください。』

(『』内は岡田契雪先生より)



使用筆(白神)・使用紙(漢字条幅用紙半切・梅花箋)・使用墨(頂煙翰墨自在(固型))



半切(約136×約35センチ)

半切検定課題原寸大手本
500円で販売しております。

岡田契雪先生書

〔仰面青天 夜鳥啼早秋 銀河花外轉 時有一星流〕 陳文述 (印は墨つき)

読み一面を仰げば青天遠く、夜鳥早秋に啼く。銀河花外に転じ、時に一星の流るる有り。

意味―ふり仰げば夜空は遠く、夜の鳥が早秋に啼く。銀河は花のむこうに廻り、時に流れ星が一つ見える。

注意

漢字半紙部門と段級位は異なりますので漢字条幅部門の段級位をご記入下さい。なお、初めて出品の人は新とお書き下さい。
支部名・段級位・氏名は鉛筆で左下に記入下さい。

漢字条幅臨書課題

漢字条幅部
※出品段級位(新級〜正師範)

◆王羲之(集字聖教序)

今月号は七夕競書なので、いつもより条幅に取り組む方が多いです。そこで課題解説をより丁寧に分かりやすくお伝えしようと思います。ただ書の理論的なこと、すなわち細部にわたつての用送筆や筆管の扱いなど、文章で明瞭にするには限界があります。その辺はどうぞご容赦下さい。

まず例月の書友の作品を拝見して一番感じること、それは墨の含ませ方の少なさです。ほとんどが次の墨継ぎまで墨が続かないのが多く、途中で補墨しています。それでは潤渴のメリハリが曖昧で作品のポイントがぼやけてしまいます。そんなことを考えて、今月号は思いきって、1行目の墨継ぎを3箇所にしました。墨継ぎはたつぷりと含ませ、カスレ

臨峰聖馬對

鄙投其旨趣能無疑或者哉
然則大教之興基于乎

王羲之

〔鄙〕 投其旨趣 能無疑或者哉 然則大教之興 基于乎 (◎印は墨つぎ)

読み―(庸鄙も、其の旨趣に投れば、能く疑い或う者無からんかと。然らば則ち大教の興れるは、(西土に)基づく。

意味―その本旨に到達さえすれば、疑い惑うこともなくなる、ということがわかるのである。ところで、この大いなる教えが興つたのは、(西方の地が)最初であった。

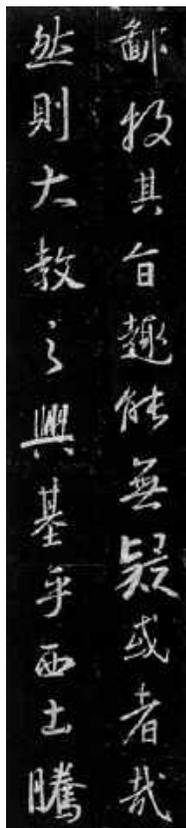
使用筆(神技北斗)・使用紙(漢字条幅用紙半切・華心箋)・使用墨(黒耀(固型))

注意

漢字半紙部門と段級位は異なりますので漢字条幅部門の段級位をご記入下さい。なお、初めて出品の人は新とお書き下さい。
支部名・段級位・氏名は鉛筆で左下に記入下さい。

半切(約136×約35センチ)

半切検定課題原寸大手本
500円で販売しております。



は明らかに線が薄くなつてることを表現して下さい。次は字の大小について、1行目の中ほどの能無疑或を見て下さい。特に疑と或の差は一目瞭然です。実におもしろく楽しい場面だと思いませんか。同じ大きさでないのがこれほど絶妙なアクセントになることを再確認できます。しかも潤渴(濃淡といつてもよい)をつけると立体的にさえ見えます。然則の横広縦長の概形、大教之興基于乎の横横縦横縦の動きを意識すると、とても佳い作品ができることをお約束します。

創作コーナー

出品資格「各部門五段以上」
作品締切日：7月25日必着

漢字半紙創作課題

※落款は支部名(県名)・姓号を毛筆で書いてください。

晴天卷片雲

読み―晴天片雲を巻く。
意味―晴れわたった大空に一ひらの雲がとりこまれて浮かんでいる。

漢字条幅創作課題

農家不惜力 早起断田间 耕罷呼酒來 晴村看遠山

読み―農家を惜しまず、早起して田間に断つ。耕し罷り酒を呼んで来らしめ、晴村遠山を看る。意味―農家は力を惜まず、早く起きて田畑を打つ。耕しおそ酒を呼び求め、晴れた村から遠くの山を見る。(関爾極)

4月号創作概評

今月の作品は、山場の草を草か艸にするかで、雰囲気随分変わってくる。創作には、そういう楽しみがあるので、どんどん挑戦してほしいものだ。(對馬 聖峰 評)

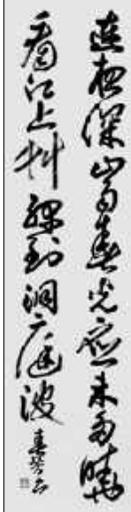
4月号創作出品者

※成績順に掲載します。(○印は写真版)

〈漢字半紙〉	〈漢字条幅〉	工藤 笑風	伊藤 照峰	柳谷 玄海
中井 巖翔	○佐藤 春芳	小郷 梅泉	辻 春華	
石田 流石	○谷地 敬川	桑田 麗月	石田 流石	
	竹森 静玉	児玉 綺芳	竹谷 恵峰	

創作優秀作品

課題 連夜深山雨 春光應未多 曉看江上草 綠到洞庭波



佐藤 春芳
ふんわりと穏やかな好作品です。2行目の山場のバランスがとても良い。



谷地 敬川
縦の流れがなめらかで、まともりが非常にすばらしい。

書作品を書こう



(半紙・羊毛小筆)

自天祐 天より祐く

天の助け。「自天祐之、吉无不利」(天より之を祐く、吉にして利しからざる無し) 天の助けがあり、万事うまくいく。孔子は、天の助けを受けるのは柔順の徳を持った人であるという。〔「易経」大有卦〕

出品者 (順不同)

畑中 柳谷 玲潤
村上 玄海
竹谷 陽香
関口 恵峰
水

◎同じ字が2字あり、形・大きさ・墨量に変化の工夫が見える。大字の花にデフォルメの一工夫がほしい。
☆3月号の掲載作品が見つかったのか誤字が2人いました。字典で要確認。



小池彩霞 (半切)

3月号優秀作品

出品規定

1. 締切 令和2年8月10日(7月号例月作品に同送可。その場合、別封筒に入れて「書作品を書こう」と書いて同送のこと)
 2. 発表表 令和2年11月号
 3. 規定用紙 半紙・漢字作品(1人1点ヨコ)
 4. 優秀作品1点だけ紙上にて発表表(批評コメントつき)その他は姓号のみ発表
 5. 段級位に関係なく誰でも出品可
 6. 返送不可
- ※出品は掲載している同作品または、当月規定用紙であれば自由作品も可。ただし、参考作品が漢字の時は漢字作品を、調和体の時は調和体作品を出品して下さい。

※作品左下に姓号を鉛筆で記入して下さい。

唐時代

◆懷素

幼い頃から仏につかえ、その修行の合間に書を学んだといわれる。貧しい家に生まれ、紙がなかったので芭蕉一万株を植え、その葉で書を習ったが足りずに漆を塗った板に書いて、ついに穴をあけてしまったというほど有名なエピソードがある。

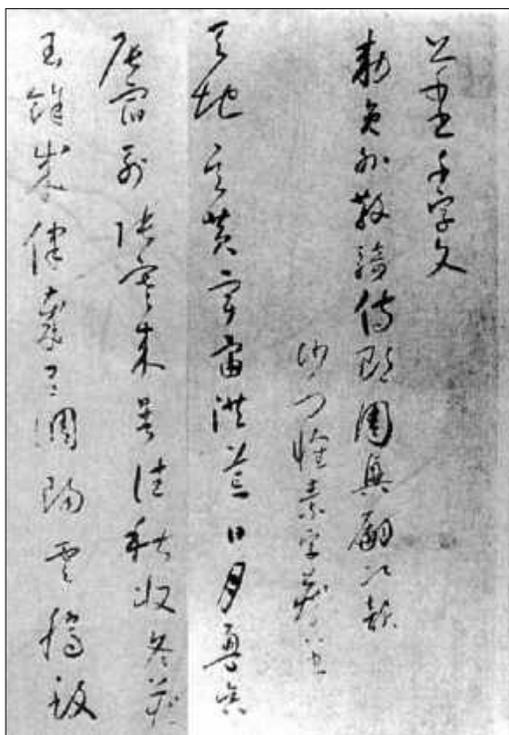
彼も張旭と同じように酒を好み、大酔すれば寺壁、器具などあたりかまわずに手当たりしだいに書き散らし、その顛狂、奇行から顛素と呼ばれた。

懷素は草書の天才でもあり、その書はあたかもその人の如く、筆勢縦横、奔放飛動であり、自叙帖や聖母帖といった狂草といわれるものから、懷素千字文（千金帖）のような平淡古雅で自然・風趣に富んだ名品もあり、書幅の広さがうかがわれます。

◀自叙帖（772）



◀草書千字文（799）



書道用語

運筆法 うんぴつぽう 筆の運び方で、単に運筆といっていることもある。点画の組み合わせなどによつて文字を構成していくときの筆の運び方をいう。書きはじめから終わりまでの時間的継続の中で抑揚・緩急・遅速の変化が表現され、これによつて書者の感情や情緒・意志といったものを表すことができる。



永字八法 えいじはっぽう 文字の基本点画の

用筆を「永」一字に集約してその法を説いたもの。「側」は点、「勒」は横画、「努」は縦画、「擡」ははね、「策」は左から右上への画、「掠」は左はらい、「啄」は短い左はらい、「趯」は右はらいとい

った基本的な画の名称です。古くから中国で重用されていたようですが、現在ではあまり価値はなさそうです。ただ画の略称は知っておいた方が便利です。

書道の疑問Q&Aコーナー

Q: 紙が変色してしまいます。どのように保管したらよいでしょうか。

A: 防虫剤や乾燥剤を入れて保管します。

湿気を吸って俗にいう紙が風邪を引くことや、太陽の光に当たって黄ばんだ色に変色することだと思えます。あとは紙を漉く際に、溶かす薬品が化学変化を起こしてしまうということしか考えられません。紙は管理がよくないと使用することができませんので注意したいものです。押し入れ・箆筒・茶箱に入れる際は、吸湿剤や乾燥剤を入れておくようにしたいものです。押し入れに置く時は、吸湿剤はもちろんのこと、簞すゐを一枚入れ、その上に紙を積んで保管するとよいでしょう。また、1階より2階にあげておくことをおすすめします。

このコーナーに書道に関する疑問がありましたらお寄せ下さい。

あて先

〒036-8006 青森県弘前市南大町2丁目3-1
日本教育書道会 編集係 行

7月号		ペン楷書課題 (ペン部)			三浦景秀書	
支 部 名						
学 年						
段 級 位	初める人は新と書く					
氏 名						
	ジェームスブラウン	自分に向ける	二倍にして	私はそれらを	対する期待	他の人々に

※課題執筆と同じペンを本会で取扱っております 定価110円

(ボールペン 0.7・硬筆用紙6行使用)

7月号		ペン手紙課題 (ペン部)				三浦景秀書	
支部名							
段級位	初めての人は新と書く						
氏名							

この度は誠におめでとうございます お祝いの喜びの気持ちを込めて
胡蝶蘭をお送りします今後 益々のご活躍をお祈りいたします

この度は誠におめでとうございます

お祝いの喜びの気持ちを込めて

胡蝶蘭をお送りいたします 今後

益々のご活躍をお祈りいたします

(美文字筆ペン・硬筆用紙8行使用)

※課題執筆と同じペンを本会で取扱っております 定価275円

楷書課題

中心
他

左に長く
期

左に長く
私

間隔を等しく
自

対

方向に変化を
待

倍

引きしめて
向

行書課題

中心
他

期

左に長く
私

方向に変化を
自

長さに注意
対

動きを大きく
待

倍

向

手紙課題

斜めに長く
中心
この度は誠に

行に振幅をつけて
気が持ちますと

筆順に注意

小さく
胡蝶蘭をお送

① ② ③
豪華なお花を

右に寄せて
お祈りいたします